

都市再生整備計画 事後評価シート
鉄道と港のまち敦賀地区

平成29年12月

福井県敦賀市


様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	福井県	市町村名	敦賀市	地区名	鉄道と港のまち敦賀地区			面積	178.6ha			
交付期間	平成25年度～29年度	事後評価実施時期	平成29年度	交付対象事業費	1,853.8百万円	国費率	0.495					
1)事業の実施状況	事業名											
	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	道路(市道清水松陵線、市道48号線 外14路線)、地域生活基盤施設(駅前広場)、高質空間形成施設(敦賀駅津内線外2、市道59号線)、既存建築物活用事業(赤レンガ倉庫・ランプ小屋)、土地区画整理事業(敦賀駅西地区)									
		提案事業	-									
			事業名	削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響					
	当初計画から削除した事業	基幹事業	高質空間形成施設(国道8号)	国道8号の整備事業の取りやめ			影響なし					
提案事業		-										
新たに追加した事業	基幹事業	-										
	提案事業	-										
交付期間の変更	当初	-	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響			-						
	変更	-										
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標	1年以内の	効果発現要因	フォローアップ	
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度	達成見込み	(総合所見)	予定時期	
	指標1	JR敦賀駅乗降客数	人/年	2,827,000	H22	3,109,000	H29	2,975,000	×	あり なし	従前値(H22)の数値は東日本大震災の影響を受けた特異値(最大値)だったと推測される。一方、その反動を受けてH24～26までは乗降客数が減少している。このことを考慮して、H29の評価値算定にあたっては、H26～27の伸び率を基本に算定する。その結果、約2,975,000人となった(従前値から約15万人の増)。H27は敦賀駅前広場や賑わい交流拠点施設が概成した年であり、H28以降はH26～27と同等の伸び率は期待できると考えられる。	H31.4
	指標2	観光施設(公共)の入場者数	人/年	10,567	H23	11,600	H29	26,000	○	あり なし	賑わい交流拠点や動線の整備による観光客の増加、景観整備による観光資源の充実等が要因と考えられる。	H31.4
	指標3	景観整備実施件数	件	14	H24	34	H29	37	○	あり なし	風情ある建築物や統一感のある街並み整備を通じ、地元住民のまちづくりに対する意識の高まりが要因と考えられる。	
指標4	歩行者・自転車通行量	人/日	813	H24	980	H29	986	○	あり なし	動線等の整備を行ったことあわせ、賑わい交流拠点や景観の整備を行ったことが要因と考えられる。		
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標	単位	従前値	目標値	数値		目標	1年以内の	効果発現要因	フォローアップ		
			基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度	達成見込み	(総合所見)	予定時期		
	その他の数値指標1	-										
	その他の数値指標2	-										
その他の数値指標3	-											
4)定性的な効果発現状況	敦賀駅周辺、敦賀港周辺(金ヶ崎緑地周辺、舟溜まり地区周辺)の賑わい交流拠点の整備や道路・建築物等の景観整備により、観光客増大とあわせて、民間等が開催するまちづくりイベントにより多くの外来者が集まるようになり、賑わいの再生が図られた。											
5)実施過程の評価	実施内容				実施状況				今後の対応方針等			
	モニタリング				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった							
	住民参加プロセス	・赤レンガ倉庫整備に関して、レンガに書き込むメッセージを市民等から募集するため、各イベント会場やインターネットにて情報を発信した。 ・ランプ小屋整備に関して、ボランティア団体を対象として展示物の内容に関する意見交換会を実施した。			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				●	賑わい創出の効果が持続的かつ波及的に展開されるイベント開催等のまちづくり活動を支援する。		
持続的なまちづくり体制の構築				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった								

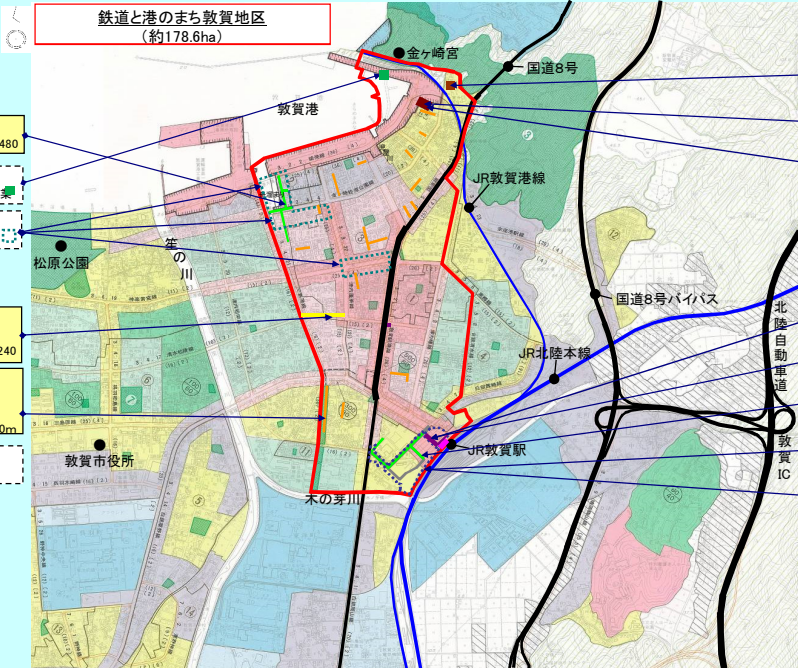
様式2-2 地区の概要

鉄道と港のまち敦賀地区(福井県敦賀市) 都市再生整備計画の成果概要


まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値	目標値	評価値
・敦賀駅周辺、敦賀港周辺(金ヶ崎緑地周辺、舟溜まり地区周辺)の賑わい交流拠点整備による賑わいの創出 ・歴史的建造物の活用や統一感のある街なみ形成を通じた地域の魅力の向上 ・3つの交流拠点の結節点となる中心市街地において、安全性・快適性の高い道路空間整備による回遊性向上と賑わいの再生	JR敦賀駅乗降客数	単位:人/年	2,827,000 H22	3,109,000 H29	2,975,000 H29
	観光施設(公共)の入場者数	単位:人/年	10,567 H23	11,600 H29	26,000 H29
	景観整備実施件数	単位:件	14 H24	34 H29	37 H29
	歩行者・自転車通行量	単位:人/日	813 H24	980 H29	986 H29




▲景観整備の状況(お魚通り)



鉄道と港のまち敦賀地区
(約178.6ha)



▲既存建築物活用事業:赤レンガ倉庫



▲景観地区:街歩きイベントの様子(博物館通り)

●基幹事業:高質空間形成施設
(市道59号線外1路線) L=480


○関連事業(効果促進事業)
敦賀港レトロ浪漫ARアプリ開発事業

○関連事業(効果促進事業)
景観形成整備支援事業


●基幹事業:道路
道路改良工事(歩道バリアフリー)
(市道清水松蔭線) L=240

●基幹事業:道路
道路修繕工事(側溝新設)
(市道48号線外14路線) L=1,500m

○関連事業(効果促進事業)
事業効果分析調査



▲赤レンガ倉庫:ジオラマ館内部



▲高質空間形成施設:敦賀駅津内線

●基幹事業:既存建築物活用事業
ランプ小屋整備(■)

●基幹事業:既存建築物活用事業
赤レンガ倉庫耐震補強(■)

○関連事業(効果促進事業)
赤レンガ倉庫等民間活力導入促進事業

○関連事業(効果促進事業)
赤レンガ倉庫周辺誘客促進事業


●基幹事業:地域生活基盤施設
広場(■) A=0.7ha

○関連事業(効果促進事業)
駅前広場整備事業


●基幹事業:高質空間形成施設
(敦賀駅津内線外2-) L=586

●基幹事業:土地区画整理事業
(敦賀駅西地区土地区画整理事業...) A=4.7ha

○関連事業(効果促進事業)
敦賀駅西地区土地区画整理事業




▲既存建築物活用事業:ランプ小屋




▲市民による見学会の様子

●基幹事業:土地区画整理事業
(敦賀駅西地区土地区画整理事業...) A=4.7ha

○関連事業(効果促進事業)
敦賀駅西地区土地区画整理事業



▲地域生活基盤施設:敦賀駅前広場



▲敦賀駅前広場竣工の様子

まちの課題の変化

- ・敦賀駅周辺の魅力ある「賑わい交流拠点」形成の一環として実施した敦賀駅西土地区画整理事業と敦賀駅前広場の整備により、駅利用者の増加と駅前の賑わい創出が図られた。
- ・敦賀駅交流施設(オルパーク)を中心として開催される様々なイベントなど、ハード事業と連動したソフト事業を実施することにより駅周辺に賑わいが創出された。
- ・赤レンガ倉庫やランプ小屋を集客施設として整備したことにより、「人道の港敦賀ムゼウム」を含めた観光客の集客性が飛躍的に高まり、本地域の賑わい創出に大きく寄与した。また、映画「杉原千畝」の影響も重なり、「敦賀ムゼウム」の来館者数が年間5万人(H28年度)と急増した。
- ・舟溜まり地区周辺における建物外観や道路の高質化等の統一感のある質の高い景観が整備され、朝市開催などにより観光客との交流や賑わいが生まれている。
- ・歩道部のバリアフリー化等の道路改良工事や、側溝新設等の道路修繕工事の完了により、歩行者や自転車等がより安全で快適に通行できる空間が整備され、回遊性が向上した。

今後のまちづくりの方策(改善策を含む)

- ・更なる賑わいの創出に向けて、市民や民間団体が企画・運営し、賑わい創出の効果が持続的かつ波及的に展開されるイベント開催等のまちづくり活動を継続支援する。あわせて、まちづくりの担い手の育成を継続支援する。
- ・各景観形成推進協議会が策定した景観形成推進計画の実現に向けて、景観形成推進地区住民に対して、まちづくりへの意識や関心を高めていく継続的活動が必要である。
- ・拠点を結ぶ動線の更なる魅力向上を図るため、当初計画で掲げていた国道8号の空間整備(敦賀駅と敦賀港を結ぶ主要な歩行者自転車動線)を実施していく必要がある。